

● 埋蔵文化財センター 耐震工事のお知らせ ●

埋蔵文化財センターでは、10月上旬より約3ヶ月間、耐震補強工事を行ないます。工事の期間中は、安全に留意し、これまでどおり開館いたします。

11月に開催します秋季特別展につきましては、これまでホールで行なっていましたが、事務所の一部へ移動して開催します。また歴史入門講座については、従来どおり会議室で行ないます。

工事は、玄関ホール、ロビーと壁面の一部、各部屋の窓ガラスが対象となり、進捗状況によっては、事務所の通用口から入館していただくこともございますので、ご理解をお願いいたします。

皆様方にはご迷惑をおかけいたしますが、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

埋蔵文化財センター所長 畑本 政美

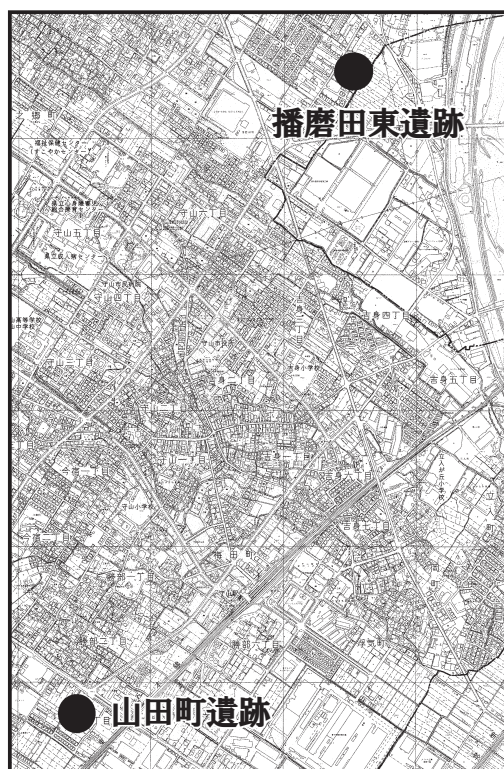
● 発掘調査の成果 ●

(1) 播磨田東遺跡

平成25年5月20日から9月13日にかけて、播磨田町地先において、宅地造成工事に伴い、約1,600㎡を対象に発掘調査を実施しました。

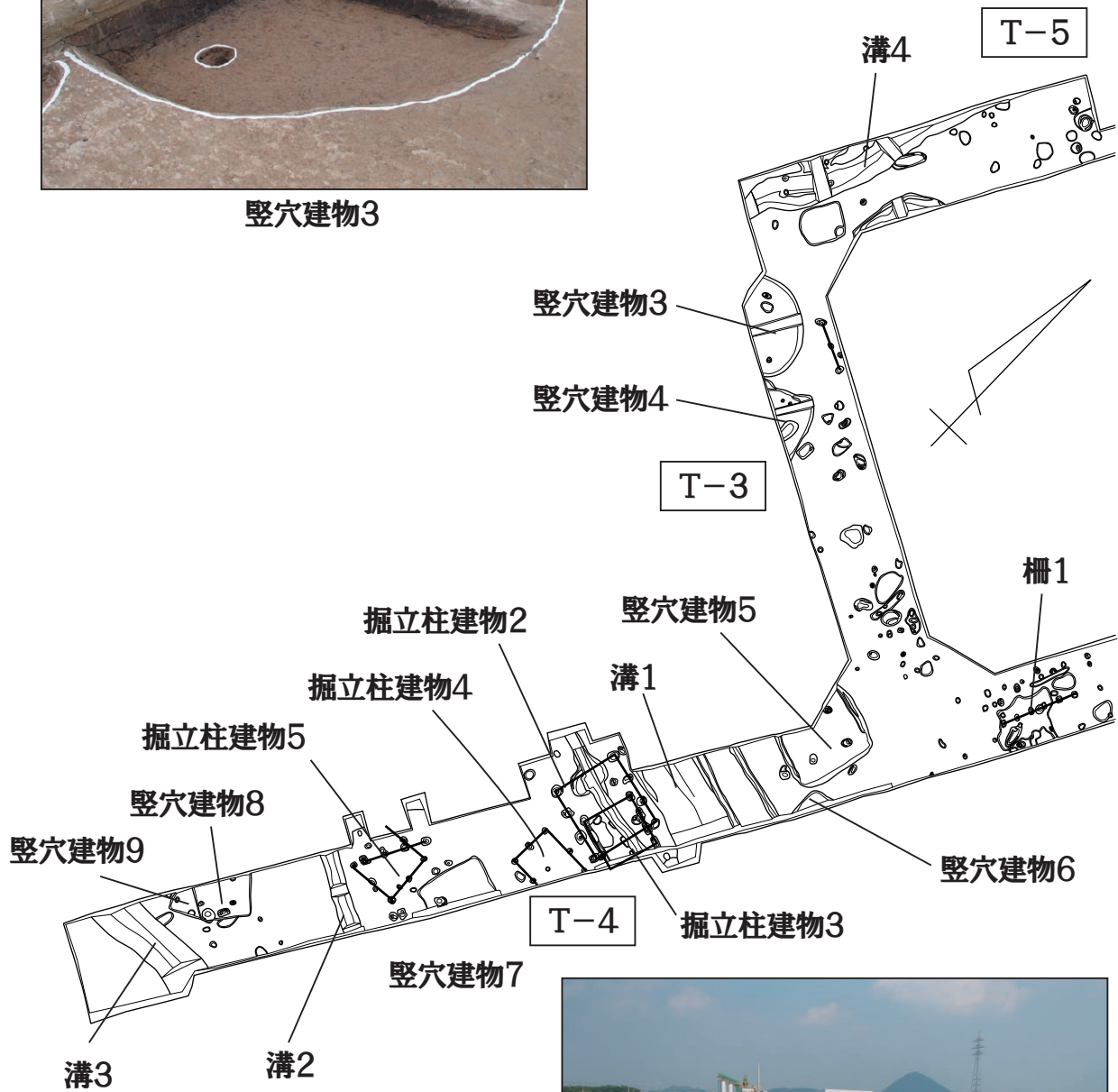
これまでの調査の中で、当遺跡では縄文時代後期初頭から平安時代までの遺物・遺構が見つっています。その中でも、弥生時代中期から古墳時代後期を中心とした遺構が最も多く、多数の竪穴建物や、方形周溝墓群の発見など、集落域としてのみでなく、墓域としても機能していたことで、市内でも注目されている遺跡です。

今回は、T-1～T-5の5つに調査区を区分して調査を行いました。そして、弥生時代中期から後期にかけての建物跡や、墓跡などが見つか

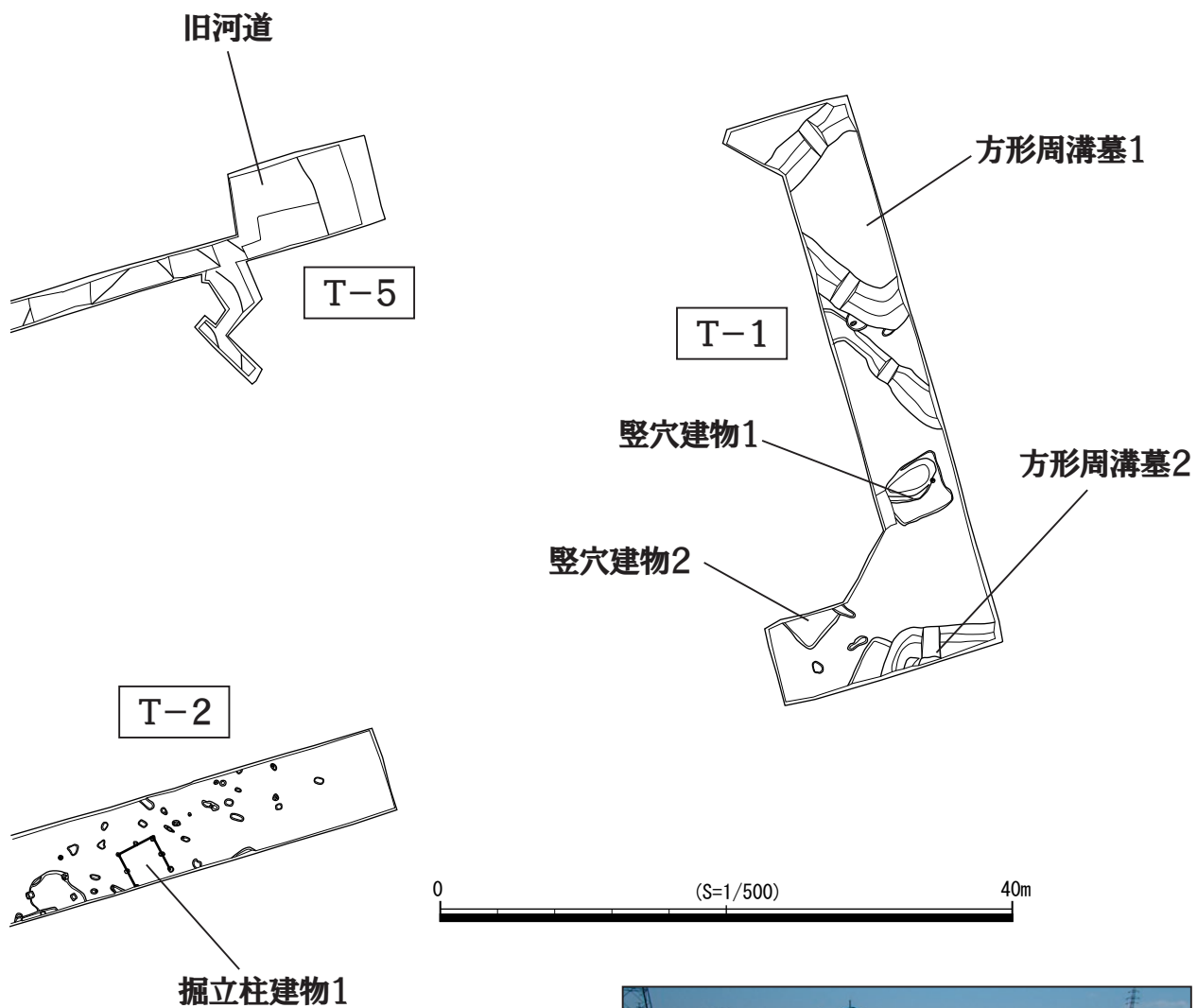




竪穴建物3



掘立柱建物2



掘立柱建物1



方形周溝墓1

播磨田東遺跡 遺跡全体図 (S=1/500)

ました。

主な遺構は、弥生時代中期の方形周溝墓2基、弥生時代中期から後期にかけての竪穴建物9棟、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての掘立柱建物5棟になります。

中でもT-4で発見された掘立柱建物3は、弥生時代後期に属し、柱穴はそれぞれ直径60cmほどで、長軸約6m、短軸約5m、床面積30㎡で、建物の中でも“大型建物”として分類される規模を持ちます。また、周辺には同時期のものと思われる掘立柱建物4・5が見つっています。

播磨田東遺跡全体を見渡しても、弥生時代後期に比定される掘立柱建物が複数みられる事例は、今回の調査地点で確認されているのみで、またこれほどの規模の建物跡は今回が初めての事例になります。一方で、当時の一般的な住居である竪穴建物



T-3 全景



T-4 南部



T-5 全景



発掘調査現場 見学会の様子

は、当該地より北、もしくは東に集中する傾向があります。以上のことから想定すると、これらの掘立柱建物群は、付近に展開する集落の中でもとりわけ重要な位置づけにあった可能性が考えられます。

これらの建物群の性格等については、今後、検討を進めて、改めて紙面で紹介したいと思います。

8月8日（木）には、ハイム寺子屋集団の依頼を受け、地元の小学生約30名を対象に発掘調査現場の見学会を行いました。はじめてみる発掘調査現場に、子供達がとても興味深く見学してくれました。こういった機会をたくさんもって、埋蔵文化財に親しみをもってくださいねと思います。

（木下）

(2) 山田町遺跡 第6次調査

勝部三丁目において、道路造成工事に伴い、約 1,200 m²を対象に、6月10日から8月30日にかけて発掘調査を行いました。

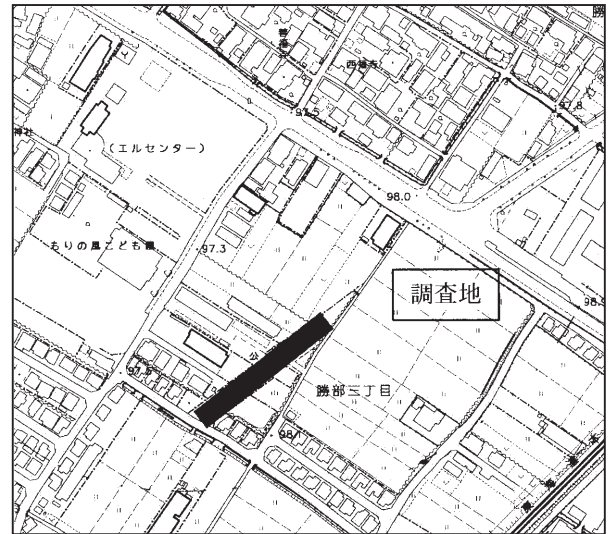
山田町遺跡は、平成10年の宅地造成工事の際に発見された新しい遺跡で、これまでの調査で竪穴建物や井戸などが見つかり、弥生時代中期末から後期にかけての集落跡と考えられています。

今回の調査では、T-1～5の5つに分けて実施し、主に弥生時代中期から後期にかけての竪穴建物、井戸、土坑などを検出しました。T-1の北西部では、竪穴建物の「周壁溝」と思われる溝の一部を検出しました。大部分が調査区外であるため、全容は不明ですが、周壁溝が円形にまわることから、円形の竪穴建物であることが想定されます。

土坑は計3基検出しましたが、これらの土坑の埋土にはいずれも炭が大量に混じっており、さらに土器がまとまって出土しました。井戸SE01は、直径2.1m、深さ1.2mで円形の素掘井戸で、土坑と同様に大量の炭が混入していました。

今回の調査で検出した遺構の数は少ないですが、竪穴建物の存在や、それぞれの遺構からは土器がまとまって出土していることなどから、当該地点は、山田町遺跡の弥生時代の集落の縁辺部であると考えられます。

これまでの調査から、現在のこども園やそれに隣接する住宅地付近が集落の中心と想定され、その集落域は東側に広がる可能性が示唆されていました。そして今回の成果は、その指摘を裏付けるものとなったといえます。(福島)



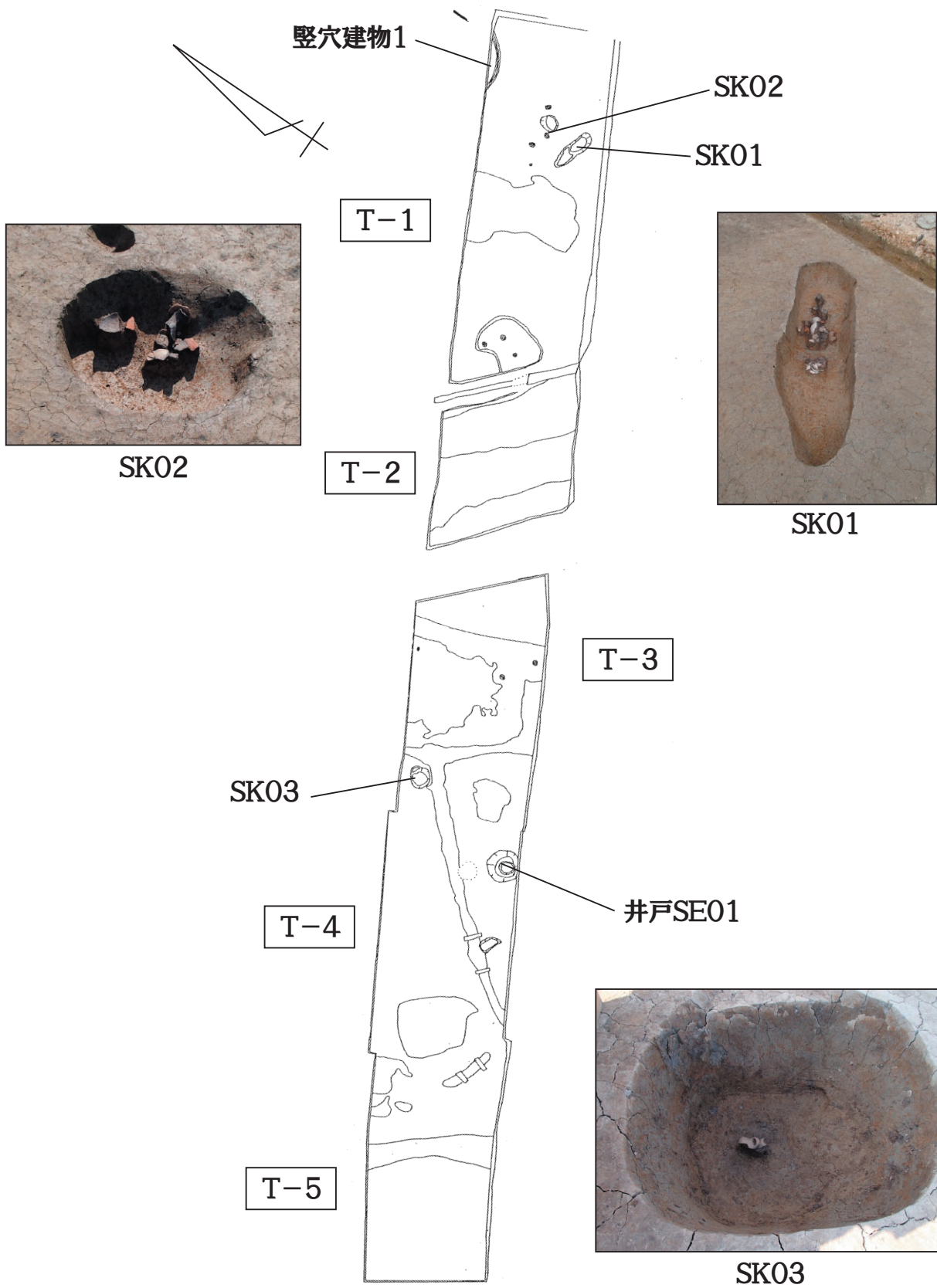
山田町遺跡 調査地点位置図



T-1 全景



T-3 全景



山田町遺跡 遺跡全体図 (S=1/400)

● 埋文センターの催し物 ●

(1) 親子考古学教室の開催

平成 25 年度も、恒例の夏の親子考古学教室を開催しました。今年度は、第 1 回に「土器作り体験」、第 2 回に「土器焼きと古代食体験」を行ないました。土器作りでは、今年度は趣向を変えて、センターに保管されているたくさんの土器から自分の好きな形のものを選んで、それとそっくりに作ってもらいました。参加者の多くは、難しい土器をえらんでしま



い、悪戦苦闘しながら形を整えていました。

古代食体験では、下之郷史跡公園で育成した「赤米」を、復元した土器で炊いて試食をしました。現代の土鍋で炊いたものと食べ比べてみると、土器で作ったお米の方がおいしいという意見がほとんどでした。

こういった楽しみながら行なう体験をきっかけに、少しでも埋蔵文化財への興味をもっていただけたらと思います。

(2) 中洲幼稚園の稲刈り体験

埋蔵文化財センターでは、今年も多くの方々の協力を得て、体験学習田で稲を育てています。5月に、中洲幼稚園の園児に植えてもらった稲は、すくすくと育ち、いよいよ収穫の時期になりました。

そして9月20日（金）に、中洲幼稚園の園児約20名に、稲刈り体験をしてもらいました。園児達は、思った以上に稲刈りが楽しかった



ようで、結局すべての稲を刈り取ってくれました。その後は、昔の農具などを用いて、お米になるまでの過程を見学してもらいました。中には、とても鋭い質問を投げかけてくる子もいて、例年以上に楽しく、学びながら、体験を終えることができました。

園児達が最後まで笑顔を絶やさず、にぎやかに楽しんでくれていたのが、とても印象的でした。

● 埋蔵文化財センター友の会 活動日記 ●

第三回見学会

「世界へはばたく天下の白鷺 世界文化遺産姫路城」

平成 25 年 9 月 18 日（水）参加者 46 名

埋文センター友の会、第三回見学会では、世界遺産の姫路城へ訪れました。現在姫路城の大天守は 50 年に一度の大修理が行なわれている最中で、その修理を見学する最後のチャンスということでこの企画に至りました。



晴天の下、まるで迷路のような城内を、ガイドの方々にみっちりご案内していただき、クタクタになりながらも、今まで知ることのできなかった城の秘密をたくさんうかがうことができました。

埋蔵文化財センター友の会 年会費 2,000 円

（見学会参加の場合は、別途費用が必要です。）

詳しくは、埋蔵文化財センターへお問い合わせください。

● いよいよ終盤！歴史入門講座のご案内 ●

6 月から始まった全 6 回の歴史入門講座も、あと 2 回を残すのみとなりました。第 5 回は“中山道”を、第 6 回は“琵琶湖疏水”をテーマにした講座を開催します。

買い物に、散策に、お花見にと、一度は訪れたことがあるけれども、実はその歴史についてはあまり知らないという方は、意外と多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

あまりにも身近すぎて、見えていなかった歴史の話を、専門の先生方にわかりやすく解説していただきます。興味を持たれた方は、埋蔵文化財センターへお気軽にお問い合わせください。

【全体テーマ】『近江の“みち”ものがたり』

【講座日程】

第 5 回 10 月 19 日（土） 「江戸時代のみちー中山道と近江の宿場ー」

講師 八杉 淳さん（草津市立草津宿街道交流館館長）

第 6 回 12 月 21 日（土） 「みずのみちー琵琶湖疏水の歴史ー」

講師 神保 忠宏さん（公益財団法人滋賀県文化財保護協会）

【開催場所】 市立埋蔵文化財センター 2 階会議室

【開催時間】 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

【受講料】 1 講座あたり 200 円。（当日の受付時に徴収いたします。）

【その他】 残席の確認は、埋蔵文化財センターへお問い合わせください。

（当日の飛び込み参加では、満席時に席を用意できない可能性があります。）

機関紙「乙貞」は守山市のホームページ（<http://www.city.moriyama.lg.jp>）からも閲覧できます。